

FIDATA HFAS1-S10 の活用(27) —MQA-CD のリッピング—

1. はじめに

MQA-CD については、ディスコグラフィー2018No.93 からディスコグラフィー2018No.99 までの7タイトルについて報告済みです。今回、これらをリッピングして fidata の NAS に取り込んで聴いてみました。

2. MQA-CD のリッピングと試聴方法

リッピングの対象は以下のとおりです。

2018No.93	MQA-CD サンプル盤(R.シュトラウス他)	ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ウィーンフィル他	交響詩《ツアラトウストラはかく語りき》第1曲 夜明け他	UCCG-40079
2018No.94	モーツァルト	レクイエム	カール・ベーム指揮ウィーンフィル	UCCG-40072
2018No.95	ブルックナー	交響曲第4番《ロマンティック》	カール・ベーム指揮ウィーンフィル	UCCG-40005
2018No.96	マーラー	交響曲第5番	ゲオルグ・ショルティ指揮シカゴ交響楽団	UCCG-40007
2018No.97	モーツァルト	交響曲第40番・第41番	カール・ベーム指揮ベルリンフィル	UCCG-40071
2018No.98	ドヴォルザーク他	チェロ協奏曲口短調作品104 他	ムステイスラフ・ロストロポーヴィチ(チェロ)・ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリン・フィル	UCCG-40078
2018No.99	ブラームス	ピアノ協奏曲第2番変ロ長調作品83	ヴィルヘルム・バックハウス(ピアノ)・カール・ベーム指揮ウィーンフィル	UCCG-40010

リッピングの方法は下記の二つの方法を実施しました。

A : Windows PC の Windows Media Player によりリッピングして、HFAS1-S10 にコピー

B : [cdrec](#) により、cdrec CDDRI-l24I→iPad→ルーター→HFAS1-S10 のルートでWiFi 経由により HFAS1-S10 に取り込み

試聴は、HFAS1-S10→Sonica DAC の USB 経由のルートで再生しました。

3. MQA-CD のリッピングと試聴結果

上記[ディスコグラフィ](#)の報告では、2015No.93 から 2015No.96 までは、LHH1001 のドライブから読み出し DAC-1 に入力して通常 CD として試聴し、2015No.97 から 2015No.99 までは、Marantz SA11-S2 のデジタルアウトから[借用中の Brooklyn DAC+](#)にデジタル入力して MQA-CD の Brooklyn DAC+の MQA デコード機能により試聴しました。

今回は、リッピングした WAV フォーマット音源を HFAS1-S10 の NAS から読み出して Sonica DAC の USB ポートに入力しています。

このように SSD の NAS である HFAS1-S10 と Sonica DAC を直結するメリットが音に出ているようで、CD トランスポートから再生するより、緻密で安定した肌理の細かい音がしています。

A と B 二つのリッピング方法では、ほとんど音に差がありませんが、前者の方がやや肌理の細かい再生ができています。

なお、[上新電機オーディオ試聴会報告\(2018.9.23\)](#)では、DELA の NAS から読み出して Brooklyn DAC+の USB ポートに入力することにより、MQA のデコードで再生していましたので、機会を見て試みてみたいと思っています。

4. まとめ

MQA-CD を二つの方法でリッピングした WAV フォーマット音源を HFAS1-S10 の NAS から読み出し Sonica DAC の USB ポートに入力して再生することができました。MQA-CD からリッピングした WAV フォーマット音源を MQA のデコードで再生することは今後の課題です。

以上